

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月19日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2770302004
法人名	特定非営利活動法人 緑樹会
事業所名	グループホーム緑樹
所在地	寝屋川市梅が丘2丁目26-1 (電話) 072-820-1620

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年12月4日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	25人	常勤	3人, 非常勤 22人, 常勤換算 8.8人

(2) 建物概要

建物構造	重量木骨SE構法 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000円(生活保護法対象者42,000円)	その他の経費(月額)	約8,500円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	500円	おやつ 0円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年10月1日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	8名	要介護2	6名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	56歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おくだクリニック、上田歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR学研都市線東寝屋川駅から徒歩からほど近い、丘陵地の田園風景が広がる所に建てられた2階建て2ユニットのホームです。理事長は福祉事業に対する思いからNPO(特定非営利活動法人)を立ち上げ、利用者の経済的負担や住環境を重視して、家庭的な雰囲気と美味しい食事を提供できるように取り組んでいます。食事は3食共利用者と共に調理を行い、旬の物を味わって頂けるように努め、時には外食を行う等、変化を持たせて楽しんでもらっています。ホームは自治会に加入し、専用の伝言ボックスを作ってもらったり、餅つき大会に招待されたり、福祉祭に参加するなど関係作りが進んでいます。職員は利用者自身の持っている力を引き出せるよう近隣への散歩や、周辺の草抜き、習字教室に通う等、その人らしく暮らせるよう支援しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価結果で示された項目については会議の場で話し合い、改善項目の一つ理念については地域に密着した内容になるよう変更を行い、サービスを提供しています。また、重度化した場合や看取りの取り組みについては検討を重ねています。外部評価結果は運営推進会議で検討を行い、ホーム玄関に置いて来訪者にも提示しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については職員の意見を聞き、管理者、計画作成担当者が作成しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の規定を作成して、家族、自治会長、地域包括支援センター担当者、理事長、管理者、計画作成担当者が参加し、おおよそ2ヶ月に1回開催しています。委員より、ボランティア協力の話があり、敬老会によきこい節を披露してもらってからは顔なじみになり、利用者を名前と呼んでくださったりしています。災害時による協力の申し出を得ています。市の担当課へ積極的に出向き、情報収集や相談を行っています。また、介護計画について意見をもらい、他施設の情報を教えてもらう等サービスの質の向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	3ヶ月に一度の「緑樹だより」には行事の写真や職員の紹介、利用者の暮らしぶりを伝えています。毎月の請求書と一緒に郵便物や、利用者自身が書いた手紙を時々同封しています。金銭管理については定期的にお知らせし、家族来訪時に確認署名を得ています。また近況報告をすると共に家族の意見を聞き、話しやすい雰囲気を築いています。家族の要望は連絡ノートに記載し、職員内で直ちに検討し改善しています。手作りの意見箱も設置しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており積極的に地域との交流をはかり日常的な付き合いを築いています。月に2回の町内会喫茶「ひだまり」に出かけたり、ボランティアによるレクリエーション、浴衣を着付け総勢百人が参加した夏祭りや餅つき大会など地域との活動行事が増え、近所の方が野菜を届けてくださることもあります。介護の件で訪問相談なども増えてきています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で明るく生き生きとした共同生活を営み、優しさと温かさ寄り添う介護を実践し、入居者の安心、家族の信頼を基本とし地域と共に歩むホーム創り」を理念としています。新しい取り組みとして、地域に密着したサービスの役割を目指しています。現在、理念が明示された新しいパンフレットの作成を検討しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内のリビング等に理念を掲示しています。全体会議やスタッフ研修会議等にて必ず理解を深める取り組みをし、職員全員が理念を共有し優しさと温かさ寄り添う介護サービスを実践しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	自治会に加入し、積極的に地域との交流を図り、日常的な付き合いを築いています。月2回の町内会喫茶「ひだまり」やボランティアによるレクリエーション、浴衣を着付け総勢百人が参加した夏祭りや餅つき大会など、地域との活動行事が増え、近所の方が野菜を届けてくださることもあります。地域の方から電話や来訪による介護相談も増えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の改善項目については会議の場で話し合い、理念については地域に密着した内容になる様に取り組んでサービスを提供しています。また、重度化した場合や看取りの取り組みについては検討を重ねています。自己評価については職員の意見を聞き、作成しています。外部評価結果は運営推進会議や来訪者にも提示しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を作成して、家族、自治会長、地域包括支援センター担当者、理事長、管理者、計画作成担当者が出席、およそ2ヶ月に1回開催しています。委員より、ボランティアの協力の話があり、敬老会によさこい節を披露してもらってからは利用者とも顔なじみになり、名前を呼んでくださったりしています。災害時には小学校に設置している備蓄使用許可を得ており、救助活動の協力ももらっています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課に積極的に出向き、情報収集や相談を行なっています。運営推進会議に出席し、介護計画書についての意見や他のグループホームについて教えてもらい見学を実施し、サービスの質の向上に活かしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1度の「緑樹だより」には行事の写真や職員の紹介など暮らしぶりを伝えています。毎月の請求書と一緒にホームからのおたよりを送付しています。また時々利用者が自身で手紙を書きおたよりに同封することもあります。金銭管理については定期的にお知らせし、家族来訪時に確認の署名を得ています。家族の面会時には、近況報告をすると共に家族の意見を聞いています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪が多く、毎朝来訪されている家族もいます。職員全員が家族来訪時に近況報告を行い、話しやすい雰囲気を作っています。家族の要望は連絡ノートに記載し、職員内で直ちに検討し改善しています。また意見箱も設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から3年経過しましたが、職員の異動は最小限に抑えられています。新しい職員の業務マニュアルを作成し、それに沿って説明しています。新しい職員には必ずなじみの職員が付き添い、利用者に対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	寝屋川市主催の研修や他の外部研修に参加しています。認知症、感染症、緊急時対応についても、外部で年3回、内部でも研修に取り組んでいます。受講内容は合同会議にて伝達講習し、職員間で共有しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入しています。その他寝屋川市の勉強会や施設見学に参加し、他事業所と横のつながりを作っています。今後も意見交換や事業所を行き来する予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでの相談時間を十分に持ち、面接時に利用者や家族からの話を詳しく聞いています。入居に不安な場合は事前に食事・入浴・レクリエーションに参加していただきます。部屋が空いていれば体験入居も行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀 楽を共にし、本人から学んだり、支え あう関係を築いている	書道の得意な方は歌詞や看板を作成し、編み 物の得意な方に編みぐるみやひざかけなどの 作品を見せていただいたり、利用者から漢字 を教えてもらったりと利用者一人ひとりを把 握した上で教えていただくという姿勢が見ら れ支えあう関係作りをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、 意向の把握に努めている。困難な場合 は、本人本位に検討している	日々の気づきや要望を職員全員がその都度記 録に残し、ケアマネジャーが細かく情報シー トにまとめあげています。習字の得意な方が ボランティアによる書道教室だけでは物足り ないとの思いに応え、近所の書道教室と交流 を図り、月に2回書道教室に通うなど、利用 者一人ひとりの思いを大切にしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケ アのあり方について、本人、家族、必 要な関係者と話し合い、それぞれの意 見やアイデアを反映した介護計画を 作成している	利用者や家族の意見を取り入れ、全体会議に おいて職員全員で介護計画を見直し、作成し ています。利用者の情報シートには生活歴・ ライフスタイルについても細かく記載し、利 用者が希望する生活を取り入れています。作 成した介護計画には利用者・家族から同意の サインを得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月から3ヶ月ごとに介護計画を見直しています。職員各々が気づきや検討内容をノートに記入し、ミーティングで常に状態変化や状況を見直しして本人や家族、関係者と話し合い新たな介護計画書を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	皮膚科、耳鼻科、整形外科等、かかりつけ医に受診するとき、家族が支援できない場合は同行しています。また、眼鏡専門店や時計、靴を買いたいときなども移送の支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回内科医、毎週木曜日に歯科医の往診があり、利用者の安心を得ています。本人・家族の希望するかかりつけ医院の援助も行っています。また検査や入院設備の整った病院との連携もしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に必ずホームの考えを説明しています。24時間医療の必要になったときや、重度化に合わせて選択肢を広げています。ホームでできることや主治医との相談を重ね、家族と重度化についての考えを共有しています。今後、「看取りの指針」の作成を検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが勉強会やミーティングの際にプライバシーに関する意識向上を図っています。日々の生活の中でも常に利用者を尊重した対応を心がけ、言葉遣いも丁寧です。職員採用時には個人情報の取扱いについて説明を行い、署名押印を得ています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりの生活リズムに重点を置いています。ゆっくり食事をされる方を急がずことなくさりげなく見守り、一日に2回散歩される方への声かけや草取り、編み物、習字など職員が利用者の暮らしに寄り添い見守っています。体を動かしたい方とはキャッチボールを行うこともあり、また皆でゲームをするなど臨機応変に対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	三食ともホームで調理し、利用者の希望を取り入れた一週間のメニューを立てています。行楽のときも、手作りお弁当で楽しんでいます。毎日の食事は利用者と一緒に準備し、当番を決めて後片付け・食器洗いも行い、楽しみの一つとなっています。食材は生協や専門店から届けてもらったり、スーパーまで利用者と共に買いに出かけたりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回午前と午後、利用者の希望に沿って入浴支援を行っています。ヒノキの香りで爽やかなお風呂をゆったりと楽しんでもらえるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできることを大切にしています。毎日掃除機をかける方、草取り、調理の手伝い、書道、麻雀、カラオケなど地域やボランティアとの交流も交えながら意欲的に役割を持っていただけるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩や買い物、公園への紅葉狩り、お花見、ファミリーレストランでお茶をするなど希望に沿った外出を心がけています。時には移動図書館に行ったり、庭でバーベキューをしたり、芋掘りに参加する等、利用者から喜ばれています。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りによる意識付けを徹底することにより、玄関の鍵を開錠しています。毎日の散歩等の外出時は必ず職員が見守り、利用者は首からホーム名と名前入りの定期入れを提げて出かけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署の協力による訓練を行い、年に2回は職員による防災訓練を利用者の参加のもと実施しています。運営推進会議を通じ地域の協力も得ています。しかし、災害時対策として水や食料の備蓄を行っていない状況です。	○	災害対策として、食料や水の備蓄を充実させることが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量を把握しています。水分摂取量は必要な方のみ把握しています。その他、きざみ食や食材を柔らかくしたり、糖尿の方には軽めに盛りつけたりするなど、必要に応じて配慮しています。	○	今後、専門家には提供した食事について栄養バランスやカロリーの計算を依頼することが求められます。
2. の人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは自然に囲まれた静かな場所に立地し、リビングや大きな窓からは山や畑が見渡せ季節感を感じることができます。またリビングではゆっくりとしたソファや畳スペースなど居心地の良い空間になっています。習字や折り紙の作品が飾られ、水槽の熱帯魚の稚魚の誕生を皆で楽しみにしていました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は居心地の良いその人らしい空間になっています。居室ごとにトイレ・洗面所・物入れがあります。仏壇・こたつ・たんす・茶筆筒などなじみの家具が置かれ、その他、写真や花、人形など飾っています。布団やベッド等も自由に選択でき、足の負担を軽減するため、ベッドの位置を工夫するなど配慮しています。職員は利用者一人ひとりの体調に合わせてより良い空間作りを心がけています。		